

はじめに

ポーラ文化研究所は、化粧を学術的に探究することを目的として、1976年5月15日に設立されました。以来、化粧を「人々の営みの中で培われてきた大切な文化である」と位置づけ、化粧文化に関する資料の収集保存、調査研究、公開普及に継続して取り組んできました。

本年、当研究所は設立50周年を迎えました。半世紀にわたる活動のなか、私たちは「化粧」や「美」の文化が、人々の生活や価値観と深く結びつき、社会の変化とともに目的や意味、表現を変え続けてきたことをとらえてきました。そして、この節目の年に、化粧文化を探究し続けてきた研究所として、生活者や社会に向き合いながら、「化粧」や「美」をめぐる問いを今日的な視点から探求する研究誌『化粧文化研究報告』を創刊しました。本誌では、研究の成果や新たな知見を広く発信していきます。

創刊号のテーマは「化粧文化×ウェルビーイング」です。不透明さや不確かさが指摘される現代において、価値観は一層多様化し、化粧や美容に求める「美」は、外見のみでは語りきれないものとなっています。こうした状況を背景に心身の健やかさや社会的な充足感が重視される今日、当研究所では「美」の意味を問い直す研究テーマとして「化粧文化×ウェルビーイング」を取り上げました。その探索の一端を「論考」として発表します。

また、「研究ノート」には化粧文化の多彩な世界と出会い、感受性が広がる場「化粧文化ギャラリー」（東京都港区）のオープニングイベント「女性像から読みとく化粧文化」をはじめとする、化粧文化に関する研究成果を掲載しています。「資料紹介」では、化粧道具や文献など、当研究所が所蔵する化粧文化資産を紹介します。さらに「Discovery Days 活動報告」では、化粧文化ギャラリーで実施したギャラリートークやワークショップの取り組みを報告します。

『化粧文化研究報告』を通じて、化粧文化への理解を深め、広めることに努めるとともに、化粧文化研究の発展に寄与することを目指します。ひいては、本誌が社会や人々の人生を豊かに彩り、気づきをもたらす存在となることを願っています。